

香川大学教育学部

附属坂出学園だより



～ 地域に必要とされる学校園をめざして～

第68号

2021.11



100年に一度と言われる感染症の世界的拡大に見舞われ、2年目を迎えました。昨秋にはかなり状況が落ち着き、2021年度は平常に近い生活を送ることができるかと期待しましたが、地域社会や学校は昨年度以上に厳しい状況におかれています。しかし、毎日の教育活動は続いています。附属坂出学園としては、感染対策をしっかりと施しながら、学園で掲げている「めざす子供の姿」を常に心に刻み、その実現に向けて日々の教育活動を着実に進めていきたいと思っております。

香川大学教育学部附属坂出中学校 校長 平 篤志

伝統ある「合同運動会」に代わる各校園の取組

幼稚園 笑顔いっぱいの運動会

9月15日、16日、17日の3日間、各年齢ごとに運動会を行いました。ダンス（表現）では、誰一人泣かず自分なりの精一杯がかわいかった年少児，“友達と一緒に”を笑顔で楽しんだ年中児、きりりとした表情や動きを見せた年長児の姿があり、たくさんの拍手をいただきました。降園前の30分という短い時間ではありましたが、親子の触れ合いも楽しい、温かな雰囲気での運動会でした。



マイプラカードで入場



踊るの楽しい♪

小学校 子供たちの力で彩った最高の舞台

今年は、小学校での開催でした。運営面でも初めてのことばかりでしたが、高学年が中心となって会場準備などを行いました。練習では、学年ごとの演技を見合い、お互いを高めていきました。本番の表現ダンスでは、元気に『未来』に向けて踊る低学年、仲間と『成長』を感じて踊る中学年、全てに『感謝』の想いで踊る高学年の姿に、保護者からの大きな拍手が贈られました。



低学年、中学年



高学年

中学校 逆境こそ突き進む道

昨年度同様、中学校単独の運動会となりました。学年別のマスゲームも、夏休みから各学年のマスゲームプロジェクトの生徒たちが考えました。歴代の先輩が使用した曲や、流行の曲などを取り入れ、学年団で1つの作品を創り上げ、表現しました。無観客、平日開催となった運動会でしたが、この逆境にも負けず突き進む姿がとても印象的でした。



3年生のたくましさ



1年生の元気よさ

特別支援学校 学部を超えて発表し合う

5月14日（金）に春季運動会を行いました。来賓や保護者の方にご参加いただけない状況での実施となりましたが、各学部の演技を披露し合うことで、達成感を味わうことができました。また、縦割りの演技では、コロナ感染防止のために高等部生徒が小学部児童の手を消毒してあげるなど、学部を超えての交流を深めることもできました。晴天にも恵まれよき思い出を作ることができました。



中学部 競争演技



小学部 棒体操

<めざす子供の姿を大切に>

生き物の命と向き合う

【年少児】

ある日、ザリガニをクラスで飼うことになりました。子供たちが一番興味を示したのも、それは「はさみ」でした。「はさみがある!」「チョッキンされたら痛いんで」といろいろにつぶやきますが、どうしても触れません。そこへ、年中児がやって来て、何の戸惑いもなく、いとも簡単に手で背中をつまんで見せてくれ、『すご〜』という表情で見ていた子供たちでした。

そんなある朝、ザリガニが1匹脱皮をしました。子供たちは「死んだ」と言います。頭の先から尻尾の先まで、見事にそのままの形で脱皮していたのです。本当に死んでしまったように見えたのでしょう。

それから3日後、今度は脱皮ではなく、本当に2匹のザリガニが死んでしまいました。すると今度は「寝よる」と言い、「食べてね〜」と明るく声をかけ、えさをあげます。そして翌日、遂に全滅してしまいました。ザリガニがいつもと違う様子に、「あれ?動かん」とたらいを持ち上げ、何回も揺らし、ようやく「全員動かんけん死んどる」「お墓を作らなきゃ」と気付いた子供たちです。

このような子供たちの気付きや気持ちを大事にした毎日を送りたいと思います。



脱皮や死に触れて

体験から学ぶ

【年中児】

夏、年中児がアサガオや夏野菜を育てていました。アサガオにも本葉が付き始め、実の詰まったミニトマトも鈴なりになり始めた頃、あちらこちらで面白い子供たちの姿が見られました。

緑色のアサガオの葉が並ぶ中、ふと見ると、色鮮やかな鉢がいくつもあり、数名の子供たちが、何やらしています。近付いて見ると、園庭に咲く花を付けて、花を咲かせていたのです。しかも満面の笑みで。毎日水やりをする中で「早くお花が咲いて欲しいな」という思いからの行動かもしれません。それだけ思いをもち、自らアサガオに関わっているのです。ただ、よく見ると、直接葉に突き刺していたため、葉にたくさん穴が空いており、枯れるかもしれません。でも、それでもいいのです。ちゃんときれいな花を咲かせることが目的ではなく、生長する過程の中で、それぞれの興味・関心からいろいろな学びを獲得してほしいものです。

また、まだ熟していない緑色のミニトマトも「トマト大好き!食べていい?」と口に入れ、「やっぱり美味しくない」と、実感して食べ頃ではないと分かる子供たち。きっとこれからは、赤くなるまで待つことなのでしょう。

子供の実体験から得た学びは、深い学びとなって身に付いていきます。



きれいな実が咲いたよ

自主・自律

共生・協働

探究・創造

やりたくなる環境の中で

【年長児】

年長児の畑には、一年を通していろいろな野菜が植えられます。6月には、ジャガイモを収穫しましたが、東側の方は日がよく当たるため育ちもよく、場所によってなかなか収穫できないことを心配する子供たちの姿がありました。そこで、大根の栽培は、畝の向きを東西から南北に変えてすることにしました。

大根の種まきをする朝、畝の調整をしている倉庫からおもちゃのシャベルやレーキを持ってきて、一緒に畝作りをしようとする子供たち。ここは、自分たちの畑だと言わんばかりの勢いです。その後、各自が作った名札を立て、自分の大根の種をまきました。直径1mm程の小さな種を慎重に穴の中に入れ、種が流れ出ないように、ゆっくりと水をかけていました。

また、別の畝にクラスで育てる人参とカブも植えていたのですが、間違えて自分の大根の所に植えてしまった人がいました。しかし、「まあいいじゃんか。芽が出るお楽しみだよ」と笑顔で返してくる姿に、シナリオのない楽しい幼稚園生活を子供たちと一緒に楽しみたいと思いました。

翌日から、登園してきた子供たちは、まず畑に向かい、水やりを楽しんでいます。畝の向きを変えたことで、正門からの直線上に名札が見え、また、側にはじょうろが準備されていることで、水やりをしたくなる、野菜の生長に関わりたくなるようです。



大きくなってね♪

9月、うさぎ小屋が完成しました。これまで小さなゲージの中で飼っており、職員が世話をしていたのですが、年長児に相談し、年長児が自分たちのうさぎとしてお世話をすることになりました。自分たちのうさぎになったことや新しい大きな小屋ができたことがうれしいようで、毎日「お世話しなくっちゃ」と誘い合い、お世話を楽しんでいる子供たちがいます。最近では、抱っこをしても、気持ち良さそうに目を細め、お腹を上に向けたまま、じ〜っと抱かれるうさぎを見て、「いつも私たちがお世話してるから、懐いているんだね」とつながりを感じ、うれしそう子供たちです。



うさぎと私のうれしい関係

スタートカリキュラム

入学しただばかりの子供たちの緊張や不安を和らげようと、登校後に新しい友達や教員と仲良くなる時間(なかよしタイム)を設けました。まずは、自分たちの思い思いの遊びができるように、活動場所を分けて、自由遊びに取り組みました。教室では折り紙やお絵かきをしたり、絵本を読んだりして過ごし、体育館では、けんや竹ぼっくり、お手玉、ブロックなどを楽しむ姿が見られました。幼稚園での経験を生かした自分の好きな遊びができることで安心感が生まれ、新しい友達にも自然に声をかけ、友達の輪が広がったように感じました。



なかよしタイム

そして、教員には自分の名札を見せて、自己紹介し、サインをもらう「せんせいとなかよしだいさくせん」にも取り組みました。初めは緊張した表情でしたが、徐々に慣れ、全員の教員にサインをもらおうと、積極的に教員と交流する姿が見られました。また、なかよしタイムの後は教室ではおはなしママーずさんに絵本の読み聞かせをお願いし、落ち着いて一日を始める習慣ができたように感じました。

これらのスタートカリキュラムの取組を通し、新しい環境に慣れ、新しい人間関係をつくり、小学校生活をスムーズにスタートできたように思います。



おはなしママーずさんによる絵本の読み聞かせ



「せんせいとなかよしだいさくせん」

4年生 総合的な学習の時間

4年生では未来学習(総合的な学習)の時間を使って、毎年、附属特別支援学校の友達と交流学習を行っています。例年であれば特別支援学校を訪れて一緒に遊んだり、合同運動会で同じ競技に出場したりといった活動を行っていますが、コロナウイルス感染防止のため、例年の活動ができません。そこで本年度は、動画を送り合って自己紹介をしたり、おもちゃをプレゼントしたりしました。

まず、ペアの友達を決め、自己紹介動画を作成することにしました。しかし、特別支援学校とはどんな場所なのか、自分のペアの友達はどんな子なのか分からず、どんな自己紹介動画にしたらいいか分かりませんでした。そこで、特別支援学校の鈴木教頭先生に来校していただき、特別支援学校やそこに通う友達について教えていただきました。お話を聞いてみて、イラストや写真を使ったり、情報量を少なくしたりすると伝わりやすいことが分かりました。

自己紹介動画を送り合った後、特別支援学校の友達と仲良くなるために、おもちゃを作ってプレゼントすることにしました。ペアの友達の自己紹介カードを見て、相手に喜んでもらえるようなおもちゃは何かをグループで話し合いました。UFOキャッチャーやパチンコゲーム、とび出す絵本など、さまざまなおもちゃを考え、みんなで協力して作りました。プレゼントする前に、完成したおもちゃと使い方動画について、特別支援学校の先生方にアドバイスをいただくことにしました。せっかく作ったおもちゃをより楽しく遊んでもらうためです。特別支援学校の先生方からは、動画がより見やすくなるためのアドバイスや細かな作業が苦手な子でも遊べるおもちゃの工夫などについて教えていただきました。



鈴木教頭先生のお話



協力しておもちゃ作り

完成したおもちゃ

今後は、おもちゃの使い方動画をより分かりやすいものに撮り直し、おもちゃの感想などをオンライン授業を通してインタビューする予定です。特別支援学校の友達の笑顔が見られるのが今からとても楽しみです。

<めざす子供の姿を大切に>

様々な関わりが生まれる共創型探究学習CAN

～「問うこと」で深まる探究～

それぞれのクラスターにおいて、他のクラスターの探究は、異なるテーマであっても、仮説の検証方法や、実験結果の示し方、考察などが参考になります。そこで、CANの発表時には、他のクラスターに対して、疑問に思ったことや、分からなかったことを「問うこと」で、探究をより深めています。



中間発表で質問している様子

～異なる視点からの意見～

年間約60時間のCANにおいて、生徒たちだけで探究を進めていくのは難しく、途中で行き詰まる場面が多く見られます。そこで、異なる視点からの意見をもらうことで、生徒は探究の方向性を見いだしています。今年度は、外部専門家・高校生（坂高生教育創造コースの生徒）と連携し、対面やズームの方法で、探究に対する質問やアドバイスをいただきました。



専門家からのアドバイス(Zoom)



坂高生による探究活動の関わり

～「困り部屋」の活用～

より円滑な探究活動を行うために、生徒は自分の教室担当の教員以外にも、「困り部屋」（情報検索ルーム）にいる教員に相談することができます。様々な教員と関わることで、探究の方法に新たな視点を得ることを目的としています。また、新任教員にとっても、「困り部屋」を設置することで、安心して指導を行うことができ、生徒と共に探究活動を楽しんでいます。



「困り部屋」で教員に相談している様子

考え、語り、問い合う「語り合いの時間」

令和元年度から続けている「語り合いの時間」では、答えのない問いに対して、生徒も教師も一緒になって全員で考え、語り、問い合うことを通して、自らの考えを深めていくことをめざしています。本年度も、答えのない問いに対して真剣に考え、自分の体験から語る姿や級友の語りに熱心に耳を傾ける姿が見られました。

テーマ：「うそをつくの悪いこと？」

- ・両方にとって良い結果になるときはうそをついてもいいと思います。悪いうそというのは、相手も自分も傷つけたりして、両方が悪い思い出として覚えていることも分かりました。
- ・うそをついてしまうこともあるが、本音を言いたい場面では、ちゃんと自分の意見を言った方がいいと思う。うそをつくの悪いこととして、単純に良い・悪いではまとめられないなと思った。
- ・うそをつくことは、ばれたら相手を傷つけるものだと思っていたが、今回の語り合いで考えが変わった。うその全てが相手を傷つけることではなく、時にうそは優しさであり、思いやりなんだと思った。



全員でテーマについて語り合う

自主・自律

共生・協働

探究・創造

日常生活での自立

集団生活での自立

社会生活での自立

それぞれの自立をめざして

特別支援学校では、校訓「自立」のもと、子供たちの将来に向けて身に付けたい力を養えるよう、日々の教育活動を行っています。今回は、「掃除」の取組を紹介します。一人一人が自分のできることを増やし自立的に取り組み、スキルアップできるよう支援しています。

小学部

「日常生活での自立」をめざして

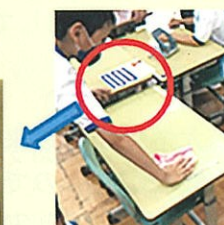
小学部では、水曜日以外の5時間目に「チャレンジタイム」として個々の課題に自立的に取り組み時間を設定しています。その時間に掃除にも取り組んでいます。個のスキルアップをめざす活動・家庭でのお手伝いにもつながる活動・役割を担って取り組む活動など、目標はそれぞれです。いずれも自立的に取り組めるように支援をしています。準備から片付けまで一人でできるように手順表を示したり、ごみを視覚化して掃除機やほうきを使って集めたり、机を拭く順番の手掛かりを視覚的に示したりするなど、個に応じた支援を考えて一人で取り組めるようにしています。



ごみをまいて掃除する場所をわかりやすく



手順カードを参考に



中学部

「集団生活での自立」をめざして

中学部では1時間目に掃除の時間を設定しています。掃除区域には各教室や特別教室、正面玄関などがあり、生徒全員で分担区域を決めて取り組んでいます。掃除に関する個人個人の技能レベルは、基本的な掃除技能の習得に取り組んでいる生徒から、道具の使い方に慣れていろいろな道具を使いながら取り組める生徒まで様々ですが、「きれいにする」ということを意識して取り組んでいます。

その中でも「集団生活」を意識した取組としては、廊下や教室を二人で範囲を決めながら掃除をしたり（写真1）、一人では運ぶことが難しい長机などを声掛け合って協力して運んだり（写真2）するなど、集団生活の中で自分の役割を果たしながら取り組んでいます。



写真1



写真2

高等部

「社会生活での自立」をめざして

高等部では、生徒の卒業後の進路先が清掃関係の事業所となる場合があります。掃除の本来の目的は「汚れを落とすこと」であり、「掃いた拭いた」ではありません。また、それを「仕事」とするのであれば、設定された時間内に終えなければなりません。そのためには、時間を意識することはもちろん、事前にできる準備をしておくことや、作業効率から工程を考えることがとても大切になってきます。これらの観点から、高等部では特別教室や共用部分の掃除を「ライフスキル」の時間に行っています。



道具をうまく使って



在学時の実習の様子

- ・個性が生きる教育の充実
- ・一人一人の学びに合わせたICT機器の活用

幼稚園、小学校、中学校合同前期学校保健安全委員会
 ～「子供の健やかな育ちの実現に向けて～心理テストで自分を知らう、子供を知らう～」～

学校保健安全委員会は、学校の健康・安全問題について協議、推進する組織です。様々な問題に適切に対応するため、学校、家庭、地域を結ぶ組織として、毎年2回開催しています。今年度より、前期は幼小中合同、後期は小中合同で行います。

前期は、附属坂出学園のスクールカウンセラー入江先生、田中先生、スクールソーシャルワーカー藤澤先生による、心の支援部活動内容報告と「子供の健やかな育ちの実現に向けて～心理テストで自分を知らう、子供を知らう～」というテーマで講演をしていただきました。入江先生からは、エゴグラムについて、田中先生からは、発達性トラウマについて、藤澤先生からは、お家で子供とできる遊びについて、講演をいただきました。

今年度は、感染症予防対策のため、Zoomでの開催となりましたが、保護者、教職員、合わせて約100名の方が参加してくださいました。

<保護者の方の感想>

- 大学生の時以来のエゴグラム。当時とは、だいぶ変化していると思う。なかなか、自分を振り返る機会がないので、今回は良い機会になった。自分の特性を知ること、子供や家族への接し方も変わってくると実感した。子供が安心できる環境を整え、寄り添っていきたい。
- 子供と向き合うと同時に、親である自分自身とも向き合う、良い機会となった。子供への言動を再確認すると同時に、夫婦間の言動も注意したい。
- 心理テストは、自分分析ができとても興味深かった。それに基づく、声のかけ方の特徴は、とても納得でき、耳の痛い部分でもあった。自分の特徴を理解し、子供と接する時に気を付けていきたいと思った。
- 今回学んだ「エゴグラム」や「お家遊び」のような、簡単に子供と一緒にできることを、もっと知りたいと思った。



白玉だんごは
奥が深い！
お家で、できる遊び！？
～一緒にやってみましょう～

どろだんごは
奥が深い！



遊んで、笑って…
わたしの一日を作る！

SC・SSWも満足に参加したよ



子育てはストレスがたまる・・・！

はあ～、自分の時間欲しい…

子どもは可愛い！でも、ときどきかわいくない…

(夫に) スマホばかり触ってないで手伝ってよ

…眠い…

ママ友の付き合い、疲れるわあ…



[SC, SSWの先生方のプレゼン資料の一部とオンライン会議の様子]

幼稚園

「知りたい」を待たせない

ある日、キリギリスに似た、口元が赤い虫を捕まえた年長児が、この珍しい虫を飼いたくて、図鑑で飼い方を調べようとしていました。しかし、名前すら分からないため、担任まで相談に来ました。担任が職員室にあるパソコンで調べるため保育室に持って行くことすると、「今すぐ知りたいけん、ここで調べよ！」と玄関先で調べることになりました。

体の形からキリギリスの仲間であることは予想できていたので、『キリギリスの仲間』と検索をかけると、画像から「クビキリギリス」であることが分かりました。また、餌は「金魚の餌」の他に『他の昆虫が食べられないような固い部分も食べる』と書かれてあり、担任「どういうことかな？」と聞くと、「カマキリは、いつもバッタの柔らかいところから食べて、足だけ残すけど、そんなところまで食べれるってことじゃない？」と言うが早いか、すぐにバッタを探しに行ったようです。

金魚の餌ではなく、バッタを捕まえてくることを選んだのは、本当に固い足まで食べるのかを確かめてみたかったのだろうと、その探究心に感心するばかりです。



飼い方を調べたい

小学校

音楽科でのICT機器の活用

GIGAスクール構想により今年度から一人一台PCが導入され、学校生活の様々な場面で活用しています。音楽の授業では、一人一台PCも含めたICT機器を用いることで、一人一人が自分に合った方法で学ぶことができるよう工夫しています。

例えば、鑑賞でヘッドホンを使用しました。自分のペースで聴けるので、一度で聴き取ることが難しくても、同じ部分を何度も繰り返して聴くことで新しい気付きを得ることができていました。



ヘッドホンで鑑賞



PCを持って交流

交流では、学習支援アプリ「ロイロノート」を使い、曲を聴いて感じたことを伝え合いました。ノートに書くことや言葉で話して伝えることが苦手でも、入力したカードを友達に送ることで意見交流することができました。

中学校

一人一台タブレットの有効活用

本年度に一人一台ずつタブレットが配布されることにより、さまざまな授業形態の変化が見られました。

例えば、総合学習CANや日頃の学習活動についてアンケートを行う際に、今までは紙面上で記入していたせいで、文字起こしや集計に多くの時間が費やされていました。しかしながら、今回は放送室から全校生徒へタブレットでの操作をレクチャーし、Web上に準備されたアンケートに入力することで、まとめや集計がすばやく確実にできるようになり、生徒も積極的に振り返りを行うようになりました。

また、コロナ禍で学校に登校するのが不安であったり難しかったりする生徒に向けたオンライン授業も実施しました。そのおかげで普段であれば欠席して授業に参加できなかった生徒も、級友とともに授業に参加することができました。



タブレットを使ってアンケートに回答



オンラインで自宅から学び合いに参加

特別支援学校

デジタル版「夏休みのくらし」

GIGAスクール構想の実現、ICT機器活用の新たな取組の一つとして、高等部では夏休みのくらし（生活記録）のデジタル化に取り組みました。「Microsoft forms」を活用して、起床・就寝時間、体温、一言日記などを記録しました。「一日の締めくくりとして楽しみながらやっていた」「字を書くのが苦手なので、今回の取組は良かったです」など、保護者の方からも好評いただきました。デジタル化は手段の一つであるということをお忘れず、生徒が「一人できる」という達成感を味わえるような実践をこれからも模索していきます。



授業風景



健康観察シート

幼稚園

地域の学びのネットワークづくり

本園では、平成29年より、本園の保育や事例をもとに、大学教授等も交えて語り合う「保育について語ろうデー」という研修会を年に3～6回程度開催しています。参加者は、県内の幼稚園・保育所・認定こども園等からの希望者で、1回の参加人数を15名程度に制限しています。少人数での開催により、参加者は、登園から降園までの1日の生活をゆっくりと参観することが可能となり、大変好評を得ています。子供のつぶやきや遊びの展開、保育者の言葉かけなどを間近でじっくりと見ることで、子供の身になって考えたり、自分が保育者ならどう関わるだろうと考えたりしながら自分自身と向き合い、保育者としての自分の課題に気付く参加者も多くいます。

また、保育討議においても、参加者が多い研究発表会の時とは違い、人の話を聞くばかりでなく、自分の思いや保育について話す機会があり、参加者が主体的に参加できる研修の場となっています。参加者が、少しでも緊張を和らげ、日々の悩みや葛藤を率直に発言できるような工夫をしています。『主体性って何だろう?』『これまで私がやってしまった保育での大失敗』など、誰にとっても身近で、語りたくなる協議テーマを設定するとともに、共感をもって受け止め、共に考える雰囲気を作っています。事後の参加者アンケートには、「先生方の連携が自然にできていて、クラスの枠を超えて育ち合っていると感じた」「小さい園ながらも、草や木などの豊かな自然環境が整備されており、子供たちにとって魅力的な園だと感じた」など、附属幼稚園のよさや「就学を焦らず、ゆとりをもって保育をしたいと思った」「自分の抱えている悩みが話せたことで日頃のもやもやが解消され、明日から頑張ろうと思えた」など、明日からの保育に向かう前向きな思いが綴られています。

保育の質の向上が求められている現在、保育者が自分自身に向き合う時間をもち、他者と語り合う中で心を動かし、自ら実践課題に気付いていくことが重要であると考えます。その一助となる地域の学びのネットワークを構築すべく、我々は、子供と共に在る保育の営みをありのままに開き、共に学ぶ保育者の一人として謙虚な姿勢で語り合い、保育の質の向上に努めていくとともに、今後も附属幼稚園として発信を続けたいと思います。



小グループでの討議

<人が集まる学園に>

- ・ 地域の方や専門家の積極的な活用
- ・ 地域の方を招いた生涯学習の場づくり
- ・ 地域と共に創る安心・安全な町づくり

中学校

球技ゴール型「ユニバーサルホッケー」

3年生の球技ゴール型「ユニバーサルホッケー」の授業を飯山高校の片平久光先生を講師に招いて行いました。授業では、スティックの操作やボールの止め方、パス、ドリブルといった基本的な技術指導を学ぶと同時にホッケー競技の特性でもある“みんなが安全に楽しむことが大切”ということにも気付くことができました。その後は学んだ知識・技能を使って、自分たちでオリジナルの教具やルールを考えてゲームを行うなど、ユニバーサルスポーツへの興味関心や生涯スポーツへつなげることができたと思います。



“届けよう、服のチカラプロジェクト”出張授業

1年生家庭科では、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）とファーストリテイリングが取り組む参加型の学習プログラムの一環として、GU社員を講師に招いて出張授業を行いました。授業では、SDGsやリサイクルの意義、服にはどのようなチカラがあるのか、また回収した服の活用法などを学び、服をめぐることで自分たちにも世界の困っている人たちのためにできる活動があることに気付くことができました。授業後には、服を必要としている難民の子供たちに服を届けるために、プロジェクトチームが中心となって校内や小学校、幼稚園にも協力していただき、子供服の回収を行いました。回収活動を通して、自分たちの小さな行動でも世界の人々の役に立つことや、自分の世界のつながりを実感したようです。子供服の回収活動にご協力いただいた方々、ありがとうございました。



小学校

足の速さは才能じゃない

一般社団法人「走りの学校」・和田賢一先生をお招きして、講話と全校生に向けたスプリント教室を開催していただきました。和田先生は、五輪金メダリストのウサイン・ボルト選手と共にジャマイカで練習を積み、ビーチフラッグス競技で全日本選手権を3連覇した経歴があります。たくさんの失敗を繰り返しながらも、諦めずに努力を継続することが、人生にとって大切であることをお話と走り伝えていただきました。



研究することってどういうこと?

「世界一〇〇な！お天気アトラクション」と題して、国立研究開発法人海洋研究開発機構・茂木耕作先生とオンラインで交流しました。「台風はどこからやってくるのか」や「風はどのように生み出されるのか」など、高学年の子供たちが調べたことをプレゼンテーションで発表し、その発表内容に対して研究者の視点から温かいお言葉をかけていただきました。疑問に思ったことを調べることの面白さや意義について学ぶ機会となりました。

デザインに思いを込めて

アーティスト・増田薫さんには、運動会に向けて子供たちが制作するTシャツのロゴマークを一緒に創っていただきました。プロの画家がどのような考えや手順で制作を行っているのを知り、運動会テーマである『感謝』の気持ちをロゴマークで伝えることができるということを実感しました。子供たちは、絵を描くこと自体の楽しさを学び、休み時間などに進んでデザインに取り組む姿が見られました。



命って何ですか?

若くして癌という病魔に侵されながら、今を懸命に生きる石谷一寿さん。癌という病気の予防や治療について、実体験を基に、詳しく教えてくださいました。突如として当たり前のことが当たり前でなくなった経験があるからこそ、発する一言一言が子供たちの心にしっかりと届いていました。「周りの人のために、一生懸命、やれることを全力でやる」という、石谷さんからのメッセージをみんなで大切にしていきたいです。



特別支援学校

やまもも相談センターの取組

昨年度から、特別支援学校が担うセンター的役割として「やまもも相談センター」を立ち上げ、地域の先生方や保護者の方、関係機関の方への研修や相談、情報提供などを行っています。研修・相談事業としては、「やまもも教室」として、年間10回程度、講演会や個別相談などを行っています。昨年度からのコロナ感染症の影響で集合しての研修などを行うことが難しくなっていますが、人数を制限して少人数で教室環境や支援ツールを見学してもらったり、オンラインで研修会や座談会を行ったりしています。また、個別相談は一家族ずつなのでお子さんと一に来校していただき、香川大学の小方朋子先生をアドバイザーに迎えて実施しています。10月には、香川大学の坂井聡先生による講演会をオンラインで行いました。今後もいろいろな形で研修していけるよう検討していきます。情報提供としては、本校のホームページに研究成果の報告や教材集などを載せています。そちらも授業や支援の参考にしていただけるよう、充実させていきます。



HP「やまもも相談センター」

多度津高校との交流

7月に多度津高等学校ソフトボール部の生徒さんと本校部活生の部活動交流行事を行いました。最初は両校の生徒とも緊張の面持ちでしたが、一緒にウォーミングアップをする中で、体も心も少しずつほぐれていきました。まずは多度津高校の守備のプレーを見せてもらいました。本校の生徒もソフトボールの経験はありましたが、インターハイ出場の多度津高校生のレベルの高いプレーはとても刺激的で、「おー、すごい！球が速い！」などと声をあげ、自然に拍手が湧きました。両校同士の二人組でのキャッチボールでは、「ナイスキャッチ！」「惜しい！」などと声を掛け合いながら、お互いの力加減を確かめつつ少しずつ距離を縮めていこうとする温かなやりとりが見られました。ミニゲームをする頃には、緊張も解け雰囲気は最高潮。ホームランを打てば、「ナイスバッティング！」、いいプレーが出れば「ナイスプレー！」などお互いのプレーを称え合い、心から楽しむ生徒たちの姿が見られました。別れ際には、これからインターハイに挑む多度津高校ソフトボール部の健闘を祈って、本校生徒から元気いっぱいのおエールを送りました。



松 韻 会

オンラインでの交流会（小学校・中学校）

松韻会では毎年、新入生のお子さんや保護者の方を対象に交流会を開催してきました。しかしコロナ禍のため、今年度は趣向を変えて、オンラインによる交流会の開催となりました。5月15日（土）、小学校では、1年生のおさんと保護者の方を対象に「ウェルカムオンライン交流会」を開催しました。自己紹介や先生からのクイズなど、親子一緒に楽しい時間を過ごしました。また、中学校では6月13日（日）、1年生の保護者の方を対象に「オンライン学級保護者会」を開催しました。小グループでの情報交換など、先生方も交えて有意義な時間を過ごしました。オンラインでもお互い顔を見て会話することができ、交流を図る良い機会になりました。



夕涼み会（幼稚園）

7月9日（金）に行われた夕涼み会は、各クラス時間差による分散型で行われました。初めての試みではありましたが、保護者の方のご協力のもと、ゲームコーナーやパン及びバザーの販売をリズム室や各教室を広く利用し、経路を考え、Withコロナでも楽しめる会場になったと思います。

浴衣や甚平を羽織った園児たちが、無邪気に楽しんだり、一生懸命に歌を歌ったりしている姿は、本当に微笑ましく感じました。また、分散型で開催されたことで、全園児がまれなかったことは残念でしたが、ゆっくりと親子の時間を過ごせたのではないかと思います。来年は、全園児が集まって楽しめる夕涼み会になればいいなと願っています。

親 和 会

運動部体操教室 「Zoomでレッツたいそう」

今年も新型コロナウイルスによりイベントが中止になり、私たち親和会の活動は休止状態でした。そんな中で保護者からは「夏休みどこにも行けないからかわいそう」「運動不足になりそう」という心配の声ばかりが聞こえてきました。子供たちが少しでも楽しめる活動はできないか検討し、「たけのこ体操教室」の安部たけのり先生を講師に迎え、学校と家庭を「Zoom」でつなぎ運動ができるイベントを実施しました。

元気な安部先生の楽しいクイズから始まり、子供たちは最初から笑顔でした。運動は簡単なものから少しずつレベルが上がっていくので取り組みやすく、子供たちそれぞれ頑張る姿が画面からも伝わってきました。私たち保護者も挑戦しましたが、私たちの方が苦戦していました。ちょっとした時間にできる運動ですので、運動不足解消、コミュニケーションの1つとしてぜひ取り入れていきたいと思いました。

コロナ禍により例年とは違ったイベントになりましたが、多くの力をお借りして無事に終えることができました。これからも皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



画面を通してこんにちは



運動部役員も一緒に



楽しかったゲーム

編集後記

2020年1月に日本で始めて新型コロナウイルスが確認されてから、1年半以上の月日が経ちました。学校現場でも様々な活動が制限されてきましたが、そんな中でも附属坂出学園では、今できることは何かを考えて取り組んできました。子供たちの笑顔や頑張る姿に元気と勇気をもらいながら、一步一步前に進んでいます。支えてくださるたくさんの方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも伝統ある附属坂出学園での学びをつないでいきたいと思ひます。

発行年月日：2021年11月吉日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出学園